

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山聾学校（51）

評価実施日	令和3年2月4日（木）	
委 員	就労関係者	
	福祉関係者	リモート参加
	教育関係者	
	医療関係者	リモート参加
	地域有識者	
	教育関係者、地域有識者	
	教育関係者、地域有識者	
	保護者代表	
	保護者代表	
	保護者代表	欠席

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学習指導・言語指導について コロナ禍により、例年になかった制限が生じたが、形を工夫して教育活動が実施できていた。手話パフォーマンス甲子園での入賞など、課外活動が充実していた。</p>	<p>対話を取り入れた授業の工夫や、今年度急速に進んだICTの活用などにより授業改善を進める。また、今年度中止や縮小が余儀なくされた他校との交流及び共同学習等も感染防止対策を行ったうえで、集団で学びあう場の確保を心掛けたい。</p>
<p>2 特別支援教育体制について 幼児児童生徒数が減少しているが、コロナ禍により、サマースクールや公開講座が中止となり、学校の情報発信が十分に行えなかった。これに代わる方策が必要である。</p>	<p>動画やSNS等での情報発信を検討する。幼児児童生徒を増やす取組は重要であるが、障がい児が地域の学校へ通う流れもある。聴覚障がい児教育に関するセンター的機能を持つ本校の存在意義を再認識し、聴覚障がい児にとってのホームであり続けるために、専門性と人間力をより高めていきたい。</p>
<p>3 生徒指導について 防災訓練については、子どもたちが普段過ごしている場所での煙体験など、実際に即した体験ができていた。</p>	<p>停電で放送が使えない想定など、実際の学校生活に合った訓練を行っている。今後もみなら特別支援学校松山城北分校と情報を共有し、連携しながら行っていく。</p>